



子どもが売られない世界をつくる
認定NPO法人 かものはしプロジェクト

だれもが
尊厳を大切にし
大切にされている
世界を育む



認定NPO法人 かものはしプロジェクト
2021年度年次報告書

**2021
2022**

Kamonohashi-project Annual Report

夢を紡ぐ

インド事業10年の歩んできた道

KAMONOHASHI IN INDIA

The journey of India programme over the last 10 years



Written by
清水 友美
Tomomi Shimizu

印度事業部ディレクター。2年間のインド駐在を経て、2013年7月からかものはし日本事務所勤務。大学院修士過程修了後、国際機関や人道支援機関で開発援助事業に携わる。

かものはしがインドで事業支援を開始してから、2022年3月で10年が経った。私がかものはしで仕事を始めたのは2012年夏ごろ。当時、ムンバイに住んでいた私は、知り合いとマイクロファイナンスの財団を立ち上げていた。人身売買サバイバーを含む、辺境へ押しやられてきたさまざまなグループを訪問し、一般的のマイクロファイナンスを受けることができない脆弱性を抱えた人たちが、いかに小口現金へのアクセスをもとに生計を立て直し、貧困や経済的脆弱性を乗り越えてメイストリームの社会に復帰できるのかを一生懸命考えていた。2011年にインドで暮らすよ

うになつてから、寄付や政府開発援助資金だけで問題解決するには不可能なスケールで広がる、路上生活者、路地裏に立ちおきさんを勧誘する性産業に従事する人々、スマラム街で暮らす人たちなどの様子を見ては、ものすごい熱量と多様な暮らし方に圧倒されていた。途上国の開発問題にずっと従事してきた私にも、初めて目にする圧倒的なスケールだった。そんな時、出入りをしていたSave The Children India（STCI）というNGO（後のかものはしのパートナー団体の一つ）からかものはしを紹介され、暑い日のカフェで本木と会つたのが、私のかものはしとの関わりのスタート地点である。

深い悲しみと不条理を「理解」しようとする

人身売買問題という、教科書の中でしか目に入ることのない社会課題に、どう見てもアマチュア集団である日本のNGOが取り組んでいる。最初は半信半疑で飛び込んだ世界だったけれど、気が付けば10年。その間に、当たり前だけれど、たくさんのことを見、感じ、考えてきた。一番最初にSTCIで話を聞かせもらったサバイバーのストーリーの衝撃以降、事あるごとにサバイバーの話に耳を傾け続け、データを分析しながら、世界で注目されている社会課題解決のアプローチ（例えば、コレクティブインパクト）も取り込んで、インドで問題解決が進むような戦略を作ることにエネルギーを割いた。サバイバーの人から、売られるまでのことや搾取されていた間のストーリーを聞くことは、彼女たちの同意を取つていたとしても、彼女たちに二次被害を追体験せざることになる。いつも、そのことはどうなんだろうと、葛藤していた。無理を承知で、

インドの懐の深さに飛び込み、心に火傷をしたこともあった。「おまえは俺たちとは違う」となぜ線を引かれなければならないのか。戻つたらまた搾取されると知つていながら、なぜ自分を売った叔母のもとへ帰つていったのか。今日の前の建物に捕らわれている初潮前の子どもたちが、この後売られ悲しい人生を歩んでいくと知つていながら、なぜ自分たちにはそれを止められなかつたのか。

「迎えに来てほしい」という子どもが思ひとは裏腹に、なぜ親は迎えに来ず、子どもを絶望の淵へ追いやつたのか。せっかく人身売買の被害を生き抜き村に戻つたのに、自殺をするしかないほど追い詰められた彼女を、私たちはなぜ救えなかつたのか。たくさんの「なぜ」を前に、私の心は怒りと悲しみが多くの場所を占め、最後の決定打が、2018年1月に起きたサバイバーが殺された事件だつた（2017年度年次報告書参照）。今振り返つてみると、最初の5、6年は深い悲しみ、圧倒的な不条理に対する怒り、全力の闘いが、私と事業の中核にあつた。そして



それは私の中で正当化されたり、だからこそ周りがそれを理解し、共感してくれることを当たり前だと思っていた。そんな私のあり方は、いろいろな意味でかものはしのインド戦略や事業支援、またかものはしという組織に対しても影響を与えていたことに、ようやくこの1、2年で気が付いた。

極化する世界の中で、ストーリーが持つパワー

時を同じくして、2018年秋からかものはしはサバイバーのリーダーシップ事業に乗り出した。それまではシステムを強化することで加害者の有罪判決率を上げるとともに、被害者補償や政府スキームをサバイバーが受け取ることにより、彼女たちが抱える経済的・社会的脆弱性から脱却することを目指していた（タフティーシュ事業）。その事業の中で、声を上げるサバイバーの主体性がシステムを変えるということを目の当たりにした私たちは、それをもうひとつ事業戦略に据えることにした。被害者からサバ

ロジックは、彼女たちのあまりに多様な美しい光を放つリーダーシップアクションを前に、再定義を余儀なくされたのだと思う。例えば、サバイバーグループから上がってくる児童婚やDVの予防、地元の橋の再建やプラスチックごみの削減というリーダーシップアクションの提案を、それは人身売買問題解決に直結しないという理由で果たして棄却してよいものなのか。かものはしが有する資金の分配を、かものはしのロジックだけでコントロールし、彼女たちのロジックに耳を貸さないことは、そもそもリーダーシップ事業という観点から矛盾していないのか。それはめぐりめぐつて、彼女たちが本当の意味で自分たちにとって重要だと思つてい

ることを表現する機会を取り上げ、彼女たちがリーダーシップを發揮する場を奪うことになるのではないか。一方で、日本で大切なお金を託してくださっている方たちのことを思うと、何でもありとうわけにもいかない。リーダーシップ事業のインパクト指標はどう設計すると、何百人のサバイアーリーダーたちの多様な文脈と、彼女たちの持つ生まれた多様な美しい原石を活かしながら、最終的に人身売買問題を解決するという方向に導いていくことができるのか。彼女たちと一緒に見てみたい世界はどんな世界なのか。そこにたどり着くために私たちの中で癒されていない傷はどこからきて、どう自分たちで癒す力をつけていくことができるのか。リーダーシップ事業を始めてから私たちの問いは少し質を変えて、たくさんのサバイアーリーダーたちのストーリーへと流れを作っているよう思う（その成果については事業報告をご参照願いたい）。

世界が極化していく、社会が悪

と善の間で分断を広げていく中で、私たちのインドでの10年の旅路は、当たり前に捉えていた自分の固定概念を対象化して、それをもう一度再定義していくプロセスであったように思う。絶対的な悪だと自分が決めつけているものを、もう一度探求することには大きな痛みが伴う。悪だとレツテルを貼つておくことの方がずっと楽だとも思う。自分たちの中の痛みがやっと癒されてきたと思った瞬間に、また悲劇が起き、深い悲しみとともに「なぜ」が自分の頭をもたげてくる。そんな波の海を泳ぎながら、*collective healing*（集合的癒し）の向こう側に行きたい。「向こう側」の世界を、NGOのアクティビストやサバイアーリーダーたちや、日本でもかものはしのインド事業に思いを寄せてくださる方たちと一緒に作りたい。一人一人のストーリーに耳を傾け、その人が誰なのかが少しずつ明らかになる時、それらの芽の一つ一つが*healing*（癒し）となり、気づくと向こう側に行っているのではないか、そんなことを期待しながら。

TO CREATE A WORLD WITH OUT HUMAN TRAFFICKING



強固なシステムに 生まれた変化とこれから。 挑み続けた9年間。

子どもが売られない社会の仕組みを作るプログラム

TAFTEESH

【タフティーシュ】

人身売買の被害にあった女性たちが権利・正義を取り戻せるよう、
刑事司法制度や福祉制度の強化に取り組むタフティーシュ事業※
は、2013年の開始から9年経ち、2021年は232人のサバイバーとともに、10人の弁護士、16人のソーシャルワーカー、25人の事業管理・実施担当たちが一丸となって事業を実施しました。

※この事業は、①トラフィッカー（女性たちをだまして売春宿に売るもの）が適切に検査され、裁判で有罪判決が出されること、②人身売買の被害に対して適切な被害者補償を国から受け取ること、③人身売買の被害から適切に回復できるよう州・県の支援を獲得すること、④人身売買の犯罪が抑止できる法律や政策に関与すること、を主な柱として支援してきました。



定着してきた被害者補償。 難航している加害者の有罪判決

2021年末までに90人のサバイバーが被害者補償を申請し、内50人に補償が認められています。タフティーシュ事業専属の弁護士だけでなく、国選弁護人が被害者補償を申請しても、一定以上の補償額が認められるようになっています。また、タフティーシュ事業の被害者補償申請モデルを3つのNGOが導入し、2021年には約150万円の補償金が認められました。事業開始前と比べ、10～20倍の補償額が恒常に認められており、これらは、司法制度における被害者補償が確立されつづることを示唆しています。一方、被害者補償が認められても、州政府の資金不足を理由に、補償金が入金されない事例が続いており、サバイバーリーダーと弁護士が次の戦略を検討中です。

「人身売買を予防する」とは、何を意味するのか

2021年は「人身売買の予防」が意味することを理解するため、全世界の過去8年を対象

加害者の捜査については、地元警察から人身売買取締警察へ捜査が順調に移管され、捜査の質が

2021年は「人身売買の予防」が意味することを理解するため、全世界の過去8年を対象

向上し、逮捕者と拘留者は微増しているものの、ケース発生から時間が経ちすぎているために捜査が順調に進まないという課題があります。その結果、加害者の有罪判決はこの9年間に被害者の出身地域で1件、被害者が売られた先の地域で1件と、依然として目立った成果が見られていません。

包括的人身売買取締法案については、2021年12月の冬季国会で議案に載ったものの議論が先送りされました。しかしながら、2016年以降、インド政府が、性的搾取を目的とした人身売買だけを焦点とせず、一貫してすべての形態の人身売買を抑止する法律を作る姿勢を貫いています。タフティーシュ事業が申し入れてきた成果を感じています。

とした調査と、西ベンガル州のサバイバーリーダー、ソーシャルワーカー、地元政府関係者を対象としたフィールド調査を行いました。その結果、学校やコミュニティを対象とした啓発活動中心の従来の予防活動は必ずしも効果が大きくないことや、人身売買の被害にあう可能性を上げている要因として、サバイバーが考えるものとソーシャルワーカーが考えるものは異なることがわかりました。サバイバーの視点では、家族の中で自分を解してくれる人がいないと思う場合に、そのほかの社会経済的要因（世帯収入の低さや不安定さ等）と相まって、人身売買の被害にあう確率が格段に上がるという結果となりました。これらの調査結果に基づき、2022年はタフティーシュ事業に予防の要素を組み込んで戦略化していくきます。

なお、タフティーシュは、2022年4月28日にトムソン・ロイター財団のStop Slavery Collaboration賞を受賞しました。この賞は人身

Partnership with

BANDHAN MUKTI
BIJOYINI

Uttthan

Rising together, Action together.

VIMUKTHI

MISSION

Mrugnayani

Help

Co-financed by

OAK FOUNDATION

期間 2019年9月～2022年11月
事業費 1億5445万円(1ドル=110円)
2021年度支出実績 4959万円

多種多様なリーダーシップが 芽生え、花開く

ソーシャルセクターを牽引してきたNGOリーダーたちの
リーダーシップ事業

WE THE LEADERS

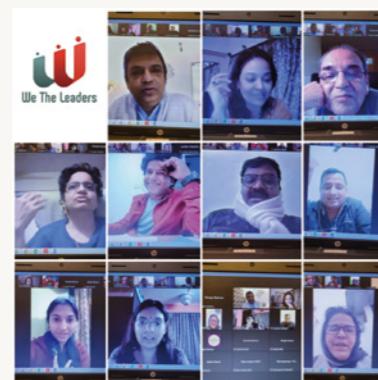
[ウィー・ザ・リーダーズ]

リーダーたちが反人身売買システムを牽引してきたにも関わらず、なぜインドの人身売買問題が抜本的に解決してこなかったのか。2019年から2020年にかけて実施した、反人身売買セクターの横断的な全容調査と、NGOのリーダーたちのリーダーシップ特性調査の結果から、その答えの一端を知ることになりました。私たち支援者も事業実施者も、「事業」だけを見て、それを実施する「人」を事業のための手段として捉えてきました。それにより、事業を動かしている「人たちが、世界やシステムをどう見て、どのようなジレンマを抱えているのかに目を向けてきませんでした。そして、彼らが一人でも多くの被害者を救いたいと強く

インドソーシャルセクターの NGOリーダーたちの ストーリーに耳を傾ける

思いもコミットメントも強いリーダーたちが反人身売買システムを牽引してきたにも関わらず、なぜインドの人身売買問題が抜本的に解決してこなかったのか。2019年から2020年にかけて実施した、反人身売買セクターの横断的な全容調査と、NGOのリーダーたちのリーダーシップ特性調査の結果から、その答えの一端を知ることになりました。私たち支援者も事業実施者も、「事業」だけを見て、それを実施する「人」を事業のための手段として捉えてきました。それにより、事業を動かしている「人たちが、世界やシステムをどう見て、どのようなジレンマを抱えているのかに目を向けてきませんでした。そして、彼らが一人でも多くの被害者を救いたいと強く

この仮説をもとに、2020年から2021年には、実際にリーダーたちの話に耳を傾け、彼らが自分たちのリーダーシップをもう一度見つめ直すことに関心を持つつかどうかを、探りました。コロナの影響によりオンラインでのワークショップ実施となりましたが、上記仮説をもつと検証してみたい、このリーダーたちの意思が確認でき



これらの仮説をもとに、2020年から2021年には、実際にリーダーたちの話に耳を傾け、彼らが自分たちのリーダーシップをもう一度見つめ直すことに関心を持つつかどうかを、探りました。コロナの影響によりオンラインでのワークショップ実施となりましたが、上記仮説をもつと検証してみたい、このリーダーたちの意思が確認でき

委託先
 change mantras
 Reflexive Lenses Consulting

期間 2020年7月～2022年1月
事業費 762万円(1ルピー=1.50円)
2021年度支出実績 687万円

サバイバーのリーダーシップ事業

LEADERSHIP NEXT

[リーダーシップネクスト]

その過程で、各サバイバーグループが行っている取り組みは非常に多様で、声のあげ方や訴えるテーマもさまざまであることが明らかになりました。児童婚の防止、DV事案への介入、人身売買被害者のレスキューなど、コミュニティレベルの社会課題に、グループとして立ち向かう事例もあれば、個々人による多様なアクションも取られています。あ

2018年に開始したリーダーシップネクスト事業(※)は、人身売買の被害を生き抜いてきた人々が、社会を変えるリーダーへ成長することを支援する事業です。現在13のサバイバーグループと11のNGOが、固有の24のプロジェクトを実施し、かものはしは多様なリーダーシップのあり方がどのように社会運動化し、社会インパクトを出すのか、モニタリングを行っています。

これらサバイバーのうち7人が、2021年12月にインド反人身売買リーダー連盟(ILFAT: Indian Leadership Forum Against Trafficking)のリーダーとしてデリーへ行き、包括的人身売買取締法案に対する要請を行いました。別リーダーは、DV裁判に負けてしまった後、不安で涙しながらも、諦めないと奔走しています。また、あるリーダーは、ダリット(インドの低カースト層)の子どもたちが人身売買の被害にあわないようになると、教育センター設立を働きかけ、自らが教師として教えています。西ベンガル州南24区及び北24区のサバイバーたちはさまざまな形態の暴力に晒されていますが、発生するたびにリーダーたちがサバイバーに寄り添い、家族やコミュニティとの話し合いなどをを行っています。自分が受けた暴力(人身売買を含む)について、加害者を捜査・裁判に持ち込み、闘うことなどで声を上げるグループもいれば、コミュニティの経済・教育状況改善に腐心することで声を上げようとしているグループもあります。

リーダーは、義理の両親による行動制限に抵抗し、自分の夢を大切にするために離婚を決断しました。別のリーダーは、DV裁判に負けてしまつた後、不安で涙しながらも、諦めないと奔走しています。また、あるリーダーは、ダリット(インドの低カースト層)の子どもたちが人身売買の被害にあわないようになると、教育センター設立を働きかけ、自らが教師として教えています。西ベンガル州南24区及び北24区のサバイバーたちはさまざまな形態の暴力に晒されていますが、発生するたびにリーダーたちがサバイバーに寄り添い、家族やコミュニティとの話し合いなどをを行っています。自分が受けた暴力(人身売買を含む)について、加害者を捜査・裁判に持ち込み、闘うことなどで声を上げるグループもいれば、コミュニティの経済・教育状況改善に腐心することで声を上げようとしているグループもあります。

これらサバイバーのうち7人が、2021年12月にインド反人身売買リーダー連盟(ILFAT: Indian Leadership Forum Against Trafficking)のリーダーとしてデリーへ行き、包括的人身売買取締法案に対する要請を行いました。別リーダーは、DV裁判に負けてしまつた後、不安で涙しながらも、諦めないと奔走しています。また、あるリーダーは、ダリット(インドの低カースト層)の子どもたちが人身売買の被害にあわないようになると、教育センター設立を働きかけ、自らが教師として教えています。西ベンガル州南24区及び北24区のサバイバーたちはさまざまな形態の暴力に晒されていますが、発生するたびにリーダーたちがサバイバーに寄り添い、家族やコミュニティとの話し合いなどをを行っています。自分が受けた暴力(人身売買を含む)について、加害者を捜査・裁判に持ち込み、闘うことなどで声を上げるグループもいれば、コミュニティの経済・教育状況改善に腐心することで声を上げようとしているグループもあります。

期間 ①2020年8月～2021年7月 ②2021年8月～2024年7月
事業費 ①4505万円(1ルピー=1.48円) ②2億2380万円(1ルピー=1.56円)
2021年度支出実績 ①511万円 ②4292万円

※2020年にサバイバーリーダーシッププログラムから事業名を変更

MESSAGE FROM INDIA

CHASE AVIAN COMMUNICATIONS



メディアパートナーシップ支援

2年8ヶ月、かものはしとそのパートナーたちとともに、サバイバーのリーダーシップの旅を支援してきました。その結果は、皆で実現したインパクトに表れています。私たちのパートナーシップは、オープンな関わり、協力的な考え方、共通の経験からの学びに支えられ、改善しながら、ともに目標に向けて取り組んできました。私たちはこの活動をとても誇りに思います。また私たち一人ひとりがこの取り組みから多くのことを学び、このパートナーシップを特別なものとして感じています。

BHAVIN P TRIVEDI



情報システム構築アドバイザー

誰かが生きる気力を失ってしまったとき、そんな脆弱な瞬間に希望を与えることは、神の行為にはなりません。そのような人たちを助けることほど、人生における大きな功績はないでしょう。私たちは、この無償の行いをかものはしに見ることができます。ソーシャルワーカーの方々の利他的な活動を賞賛します。この美しい世界で再び生きていくため、彼ら彼女らを理解し、奮い立たせること。このような社会的戦士たちに敬意を表します。

PARUL SONI & AMIT PHULL



THINKTHROUGH CONSULTING
会計監査支援

かものはしとそのパートナーたちが、過去10年間、政治や市民社会の重要なステークホルダーと効果的に関わりながら、反人身売買におけるサバイバーの声を強化するために行ってきた素晴らしい活動に、心からお祝い申し上げます。焦点を絞り目的にそって行うアプローチが、国際的な事例を参考にしながら、いかに現場に変化をもたらすような効果的なケアモデルを生み出すのか。彼らの努力の積み重ねがこれを実証しています。

DIMPY MOHANTY & DHRUV MANCHANDA



LEXCOUNSEL
コンプライアンス及びリーガル支援

かものはしとその情熱的で勤勉なチームと、2018年以来一緒にすることを名誉に思います。かものはしは、最も重要なクライアントの一つです。人身売買被害者を保護すること、規則等に関して私たちに助言を求めるながら、適切に遵守していること、その両面において正しい行いをすべく、取り組んでいるからです。彼らはこの分野の複雑さを理解しながら、核となる課題に集中することでシンプルであり続けています。今後もこの素晴らしい取り組みを支援していきます。

UMA CHATTERJEE & ROOP SEN



CHANGE MANTRAS
事業形成、インド事業伴“奏”者

かものはしとの10年間は、探求、学び、発見の連続でした。私たちは思考、感情、行動のレベルでパートナーシップを組み、論理と魔法の両方を夢みて、インパクトある変化を作るというビジョンを共有してきました。もし組織が本物で、自分の感情やSankatas(ヒンディー語でジレンマや人生の課題を意味する)を受け入れる勇気を持っていれば、「慈善活動」としてとどまっていたかもしれないものが、「協働的な変容」へと進化しうることを、ともに学びました。

かものはしがインドで活動支援を始めてから10年が経ちました。今のかものはしのインド事業があります。たくさんの方々に支えられて、最もコアな皆さんからのメッセージをご紹介します。

森川有理



システムコーチ

2017年以来、全身全霊のお仕事以外は通じないこの厳しさこそがいつも私の心と魂の目を大きく見開かせてくれています。苛烈な現実に果敢に挑みながら、未来への希望を繊細に紡ぎだす、魂を磨き続けるかものはしインド事業の皆さんとのことを心から尊敬し大切に思っています。

VANDANA MENON



FLAME TAO KNOWARE
インドチームのコーチ・組織成長支援

木本さんと清水さんに初めて出会ったのは、私が正式にかものはしと関わり始める数年前のことでした。私が驚いたのは、彼らの情熱とオープンさです。かものはしとの関わりの中で私は、自由と信頼、実験をしたり、リスクを取りをことをいとわない姿勢を経験しました。プロセスに対する理解もあり、常に対話への意欲もあります。私は多くのことを学びましたし、この関係をとても光栄に感じています。

KRITHIKA BALU



リサーチャー

私のかものはしの旅は最初から、思いやりと興奮、そして絶え間なく学び続ける環境という特徴があります。これらすべてが、かものはしチームメンバーの考え方、私たちとの関わり、そして彼らのプロフェッショナルな取り組みに反映されています。かものはしとの機会は、いつも私にとって刺激的なものであり、自分のスキルを生かしながらも、私をコンフォートゾーンから抜け出させてくれました。

BANDHAN MUKTI



サバイバーリーダーグループ

サイクロンによる被災時も、新型コロナによるロックダウンの時も、かものはしはいつも私たちをサポートしてくれ、私たちはその支援に感謝しています。また、小さな決断から大きな決断まで、すべての意思決定において、私たちの意見を受け止め、尊重してくれることも、嬉しく思っています。かものはしのサポートによって、私たちのリーダーシップの旅は大きく前進しました。

SAANS



サバイバーリーダーグループ

私たちは、かものはしには何でも気軽に話し、意見も言い合えると感じています。かものはしとの密な関係により、SAANSのチームもより親密になっています。かものはしと私たちの関係は、庭師と庭のようなものです。私たちは支えられ、また、聴かれていると感じています。そして、自分たち自身に対する自信も高まっています。

MOJOJOJO MARKETING



デジタルマーケティング支援

この3年間、清水さんと彼女のチームと一緒に仕事をすることで、Mojojojo Marketingは、かものはしインド事業の有意義なクラウドファンディングプロジェクトに参加できただけでなく、会社としての視野を広げることができました。かものはしのおかげで、私たちは、さまざまな団体の短期及び長期のデジタル戦略の構築支援を通じて、非営利セクターに貢献するという、自らの可能性を実現することができます。

A photograph showing a person from behind, walking away on a wet street. They are holding a large, translucent umbrella that reflects the surrounding environment, including a building with traditional Japanese architectural details. The person is wearing a blue hoodie and striped pants. The scene is set in the rain, with water reflecting off the asphalt.

KAMONOHASHI IN

JAPAN

2021年度の日本事業部

日本国内で
子どもが尊厳を
踏みにじられている
状況を変えたい

報道されたケースでは、男性が、10代の家出少女をインターネット上で誘い出し、監禁して少女になりすまして客引きを行い、管理売春をさせていた事件がありました。10代前半の少女すらも管理売春をさせられる状況が、普段使っている大きなターミナル駅の近くで起きていたことに衝撃を受けました。

「カンボジア、インドで見てきたことと同じじゃないか」

足元の日本でも同じことが起きていることを知り愕然としました。どうにかしてこの状況を変えたいと思い、まずは個人的に色々な団体でボランティアを

日本で活動を始めた想い
海外で活動をしてきた私たち
が、なぜ日本国内の問題に取り組んでいるのか、活動を始めた想いを伝えさせてください。2002年から活動を始め、日本全国で世界の「子どもが売られる問題」を伝えてきました。その中で、活動に関心を持ってくれた子ども・若者が熱心に伝えてくれた話を聞き、実は日本の子どもたちも見えづらい暴力や搾取の被害についていることを知りました。

カンボジアやインドで、だまされて売春宿に売られている子どもたちと会つてきましたが、



Written by
かものはしプロジェクト
共同創業者
村田 早耶香
Sayaka Murata

大学在学中に子どもが売られる問題を知り、東南アジアでの深刻な状況を見て、20歳のときに創業メンバーである本木・青木とかものはしプロジェクトを創業。以来、子どもが売られる問題の解決のために活動を続けている。

しながらできることを探してきました。知れば知るほど、「家が安全ではない」状態の子ども・若者たちが、家族の助けを得られず、時には家族からお金と要求されたり、家族が足を引っ張つてくる状況があることを知り、強い憤りを感じました。

日本事業のスタート

日本でも子どもが売られている状況がある。その背景にある「家が安全ではない」状態の子ども・若者たちを何とかしたいという思いは時が経つごとにどんどん強くなりました。また、児童買春や児童虐待という単独の社会課題の解決に留まらず、社会の根底にある社会通念を、人の「尊厳」が守られる温かい社会を作るものにしたいという想いが強くなりました。

当初は、確認されている被害者数が少ない日本国内で活動することに対して、団体内外から戸惑いの声も上りました。しかし、児童買春の被害が世界的に見て

ご関係者、支援者の皆さんと何度も対話を重ねてご理解いただき、2019年より、晴れて日本児童虐待を中心とした「子どもを取り巻く不条理」をなくすための活動を始めることができました。皆さまの多くが、日本の活動も応援してくださいと悔しさに震えました。

日本国内では、官民の垣根を超えた地域連携・協働で、虐待を予防するコレクティブ・インパ

クト（C-I）事業と、当事者の声を現場の支援や制度に反映させるVOICE事業を行ってきました。さらに、VOICE事業の中では「子どもアドボカシー」の活動と、当事者の声を政策に反映させる活動をしてきました。

葛藤とその先に見えた希望

「子どもアドボカシー」とは、子どもの声に耳を傾け、その声を必要な人に伝えることができるように一緒に考えサポートすることです。例えば、児童相談所の一時保護所で、虐待から保護された子どもが、保護所での生活についてや、「児童養護施設に行きたい」「家に帰りたい」など、保護所を出た後について、自分自身の気持ちや意見をまとめ、伝えたい人に伝えるためのサポートを行います。この活動を「子どもアドボカシー」、子どもの声を聞きサポートをする人を「子どもアドボケイト」と呼びます。子どもアドボケイトは、子どもの秘密を守り、第三者として関わ

るのではなく、子どもの声を守るために、子どもの権利を尊重する立場で活動するための研修を福岡・東京の2か所で受け、「一般社団法人子どもの声から始めよう」という団体が東京で行っている、児童相談所の一時保護所での活動に参加させていただきました。子どもたちの様子は守秘義務やプライバシーがあるので詳細をお伝えすることはできませんが、子どもたちが、なぜこんなに苦しい思いをしなければいけないのか、我が子を虐待するに至った親御さんがどんなに追い詰められていたのかと思うと胸が締め付けられました。

一時保護所に通っていた期間は、目の前の大切な子どもたちの傷つきに触れ、怒りを感じたり、やるせなさを感じることもありました。子どもたちと一緒にスポーツをしたり、おしゃべりをしている時間はとても楽しく、子どもたちをとても大切だ

「子どもたちが、なぜこんなに苦しい思いをしなければいけないのか」

「我が子を虐待するに至った親御さんがどんなに追い詰められていたのか」

胸が締め付けられました。

私たち市民にも
できることは
たくさんあります。



児童虐待の問題はとても複雑で、何か一つの活動をしてすぐには状況が改善するわけではなく、関係する人たちがそれぞれの場所で皆で状況を良くするために動く必要があります。日本国内で子ども向けの支援の総量を増やし、子どもたちの目線で支援をより良くするために、政治、行政、企業、NPO、市民など関係者が連携して動く必要があります。また、私たち市民もできることはたくさんあります。学び、行動する市民が増えれば、子どものために各界で努力している人たちの活動が応援され、より活発に活動をするこ

と、それぞれの立場で行動する人が増えていると感じました。国の法律も何度も改正され、予算も少しづつ拡充しています。現場には尊敬する想いのある職員の方がたくさんいて、担当省庁の方々もたゆまぬ努力をしてくれています。

行動する人が増えれば 社会は変わる。

こうしてアドボケイトとして関わる中で、毎週話をしていた子が、自分の意見をまとめ、希望を出した結果、それが認められて希望が叶ったことがあります。自分の人生の大切なことを決める時に自分の意見をきちんと伝えてそれが叶うという、当たり前のことだけれど今まで難しかったことが実現し、自分の人生の舵取りを自分でしているという感覚を子ども自身が持てた時に、その子が自分の未来を自分の手でつかみとったんだなど、その子の力強さや、前を向いて進んでいる清々しさに希望

が、自分の意見をまとめて、希望を出した結果、それが認められて希望が叶ったことがあります。自分の人生の大切なことを決める時に自分の意見をきちんと伝えてそれが叶うという、当たり前のことだけれど今まで難しかったことが実現し、自分の人生の舵取りを自分でしているという感覚を子ども自身が持てた時に、その子が自分の未来を自分の手でつかみとったんだなど、その子の力強さや、前を向いて進んでいる清々しさに希望

活動をしていく中で、児童虐待に対する「何とかしたい」と思

他にも、社会的養護を経験したりーダーたちとともに政策提言をしたり、社会的養護を出した若者たちへの緊急支援も行いました。当事者リーダーたちが、「自分が育ててもらった社会的養護の分野に恩返しがしたい」、「今施設にいる子たちのために何かしたい」と活動している姿はとても力強く、また、当事者目線の意見にはっとさせられることが多いです。

とを感じました。一方で、そんな大切な子どもたちが傷つけられてきたことを知ると、より一層憤りや悲しさを感じました。ご縁があつて関わらせてもらった自分にできることは少ないと思ったことを一緒にやることで、少しでも気持ちが晴れたり、お話ししてすっきりしてもらえたなら良いなと思つていました。

こうしてアドボケイトとして関わる中で、毎週話をしていた子が、自分の意見をまとめ、希望を出した結果、それが認められて希望が叶ったことがあります。自分の人生の大切なことを決める時に自分の意見をきちんと伝えてそれが叶うという、当たり前のことだけれど今まで難しかったことが実現し、自分の人生の舵取りを自分でしているという感覚を子ども自身が持てた時に、その子が自分の未来を自分の手でつかみとったんだなど、その子の力強さや、前を向いて進んでいる清々しさに希望

を感じました。

また、現場の支援が、子どもたち目線で子どもたちにとってより良い支援に変わっていくと感じました。私自身はこの活動の重要さを実感し、より多くの子どもたちが「子どもアドボケート」の制度を当たり前に使えるように、国が子どもアドボケシーを制度化していくために、民間からできることを続けたいと思っています。

3

当事者の声を現場の支援や制度に反映させる

VOICE事業

子どもたちの声を真ん中に

児童養護施設や里親のもとで暮らす子ども、もしくは暮らしたことのある子ども・若者たちが声を上げること、またそれにより現場の支援や社会的養護の制度をより良いものにするための活動、支援を行っています。

子どもの声を聴き、権利を守る「子どもアドボカシー」の活動では、一般社団法人子どもの声からはじめようのアドボケイト派遣の試行実践に参加し、一時保護所を定期的に訪問しました。アドボケイトとは、子どもの声を聴き、それを伝えるためのサポートや、子どものニーズがあれば、代弁したりする人のことです。子どもたちが抱える現状への戸惑いや葛藤、将来への不安などを時間をかけて丁寧に聞くことで、子どもが自分自身で気持ちや要望を整理し、職員や家族に伝えられるよう支援をしました。

また、制度への反映に関しては、当事者が中心となり立ち上げた「虐待から逃れた子どもの心のケアの義務化・拡充を求める署名プロジェクト」に運営メンバーとして参加し、4万7403人の署名と提言書を厚生労働省に手渡しました。これまでの当事者や支援団体からの働きかけやこのプロジェクトの活動もあり、2021年度の厚生労働省の予算に初めて社会的養護経験者のメンタルケア制度の創設が加えられました。



期間
2021年4月～9月
2021年度支出実績
96万円

田村厚生労働大臣(当時)に署名と提言書を手渡す様子

2

コロナ禍で困難を抱える子ども・若者やその家族への支援

コロナ禍における支援プロジェクト

孤立させないつながりを作る

長引くコロナ禍で、厳しい生活を余儀なくされている子ども・若者やその家族への支援を、2団体を通じて行いました。

東京のアフターケア相談所ゆずりはには、虐待やDVなどさまざまな理由で親や家族を頼ることができない若者たちからの相談が寄せられます。過去の傷つきによる精神的な不調、人間関係構築の難しさ、経済的な困窮など、複合的な困難にコロナが追い打ちをかけています。2021年10月からの5ヶ月間、かものはしが資金提供をし、のべ111人の若者に、ゆずりはが食料や生活費、精神科やカウンセリングを含めた医療費の支援、支援制度の申請などへの同行支援を行いました。

岡山県においては、2021年10月から1年間、岡山NPOセンターによる取り組みを支援しています。同団体は、県内のNPO等とともに、コロナ禍での孤立を解消するため、引きこもりの子がいる困窮家庭などへの訪問支援や、虐待やDV等からの緊急避難が必要な方へのシェルターの提供支援などを行っています。また、経済的な困難を抱えた方々が食料品や日用品を受け取れるよう、コミュニティフリッジ*を開設。岡山のみならず全国へのノウハウ移転、開設支援も進めています。

*生活に困難を抱える人に食料品や日用品などを無償提供する取り組み。



岡山からのノウハウ移転で大阪寝屋川市で開設されたコミュニティフリッジ内の様子

1

官民の垣根を超えた地域連携・協働で、虐待を予防する

コレクティブ・インパクト(CI)事業

地域のつながりや連携を育む

子ども・家族を地域みんなで支え、育てる「地域エコシステム(生態系)」を育むことを目指し、地域の連携・協働を促進するコーディネーター役を担う6団体への支援を行っています。本事業は、休眠預金等活用法における指定活用団体である一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA)により、資金分配団体に採択された特定非営利活動法人エティックとのパートナーシップのもと、休眠預金等を原資とする助成金も活用しながら、MamaCan(松戸)、岡山NPOセンター(岡山)、Learning for All(葛飾・つくば)、子育て運動えん(大阪)、小豆島子ども・若者支援機構(小豆島)、グッド・エイジング・エルズ(全国)に、資金支援と研修やコンサルティングなどの伴走支援を行っています。

行政や民間支援団体、企業、地縁組織、市民、そして当事者など、多様な組織や人々の連携やつながりが不十分で、地域が持っている本来の力が発揮されていないのではないかと考え、

2020年に本事業を開始しました。コーディネーターの働きかけにより、地域の中でのさまざまな人たちの関係性が育まれ、支援の質の向上や連携につながることで、虐待をはじめとした子どもを巡る不条理が予防、軽減されることを目指しています。

2年間の事業を通した成果の兆として、各地域で、官民の連携・協働や、子ども・家族の孤立を防ぐ活動が進んでいます。例えば千葉県松戸市では、「地域円卓会議」等のフラットな対話の場づくりを通して、組織の垣根を超えて関係性が深まり、そこから訪問支援や就労相談を行う「女性のためのつながりサポート事業」など、官民連携の協働事業が複数生まれています。

期間
2020年4月～2023年3月

2021年度支出実績
500万円
※休眠預金等を含む総事業費:3億3732万円
(3年間／採択団体への助成金含む)



官民の組織の垣根を超えた対話「地域円卓会議」(千葉県松戸市)

かものはしプロジェクトのミッションを変更します。



だれもが
尊厳を大切にし
大切にされている
世界を育む

かものはしプロジェクト共同創業者
Kenta Aoki
Sayaka Murata

本木 恵介
Kensuke Motoiki
青木 健太
Kenta Aoki
村田 早耶香
Sayaka Murata

はじめに

かものはしプロジェクトは「子どもが売られない世界をつくる」を掲げて、カンボジアやインドを中心活動をしてきました。活動開始から約20年。世界中のたくさんの方の努力と活動が実を結び、子どもが売春宿に売られることは少なくなりました。この分野において、世界はかつてより良くなりました。これまで、力を貸していただきたすべての皆さんに心から感謝をします。そして、ともに成果を喜び合いたいと思います。

かものはしのこれからについて
かものはしプロジェクトは、これまで長く社会課題に取り組んできた上で、身に染みて感じることができます。「子どもの人身売買」も「虐待」も「貧困」も、それらをとりまく様々な社会の状況と結びついて、シンプルな解決方法はありません。虐待をとつつかまえればいいという話ではありません。大切な親（大人たち）がいる。そうさせてしまった社会の仕組みがある。それらすべてに、包括的に目を向けなければ、うわべだけ

20年が経ち、活動を続ける一方で、どうしても目を向けなければなりません。私たちには、どんなに難しくとも「本質」に向き合い、根本的な解決につながることをやらなければ、そう強く思いました。

取り組むべき本質は 「尊厳」

子どもの虐待や貧困をはじめとした、理不尽な社会課題の背後にある本質は何か。カンボジアやインドでの人身売買の現場で直面し続けた経験、被害者や最貧困層の女性たちに、生きるためのライフスキルやリーダーシップを身につけてもらうプログラムを行ってきたこと、それらの現場経験から政府や社会に提言をしてきたこと、さらには、活動をする中で、仲間同士の葛藤や、自分たち自身への疑いや無力感を体験したこともふまえて話し尽くし考えを尽くし、「尊厳」という言葉に行き着きました。だれもが生まれながらにして持っている、人としての「尊厳」を、だれもが、お互いに大切にしあえる社会をつくる。子ど

では、カンボジア、インド、日本あるいはこの地球社会において、かものはしプロジェクトは、どんな根本的課題にフォーカスすべきか。これまで長く社会課題に取り組んできた上で、身に染みて感じることができます。それは、独立して解決できる社会課題はない、ということです。「子どもの人身売買」も「虐待」も「貧困」も、それらをとりまく様々な社会の状況と結びついて、シンプルな解決方法はありません。虐待をとつつかまえればいいという話ではありません。大切な親（大人たち）がいる。そうさせてしまった社会の仕組みがある。それらすべてに、包括的に目を向けなければ、うわべだけ

もでも、大人でも、どんな属性であろうと、どんな環境で生まれようと、この世界に生まれてきた限り、「その人が、人として大切にされる社会と心」をみんなでつくりあげたい。人間は多様であり、人も国も組織もいつもぶつかり、判断していくことを考えれば、とても難しいゴールにも感じますが、私たちの社会が抱えるきっといちばんの課題だからこそ、やらないことはならないし、やりたいと強く思っています。そして、必ずしも夢のようなゴールではないとも思っています。

プロセスをつなぎ、育て、 エコシステムをつくる

かものはしプロジェクトは、このいちばんの本質即ち「尊厳」を大切にしあう」という視点に立って、子どもの虐待、貧困、人身売買、戦争、性差別といったいろんな事象にアプローチをしていきます。日本や世界の各地には、虐待にせよ、貧困にせよ、戦争にせよ、課題解決のために働き、ノウハウを積み重ねてきた組織や団体があり、

でした。今、これらの現実に取り組まないわけにはいかないという気持ちが自然と湧き上がり行動をはじめました。そして、きっとそれは、世界中の社会が抱える根本的な課題にも通じている。そう考えるようになりました。

個人がいます。ただ、そこに力が行き渡つていなかつたり、連携が取れていなかつたり、さらには、立場の異なる組織や個人がぶつかり合う結果となり、問題解決への力が削がれています。そんな中でこそ、私たちかものはしプロジェクトが、困難な現実の中で積み重ねた経験やノウハウが活きるはずです。対話を重んじるコーディネーションやファシリテーションによって、違いや対立を乗り越え、力をつなぎ、育て、包括的な課題解決のための（つまり、みんなが尊厳を大切にしあう社会へと向かう）「エコシステム」を育むことが、私たちのやるべきことだと考えています。

だれもが 尊厳を大切にし 大切にされている 世界を育む

尊厳を大切にしあう、
強くやさしい社会を

私たちの目の前には、虐待やいじめ、貧困といった課題がいまだにあります。そんな状況だからこそ、みんなが自分のことを好きと思えて、他者にやさしくいられる社会を次世代にのこしたい。尊厳を大切にしあう意識が、私たち

すべての人気が自分自身のこと

を大切にし自分の人生を歩むことができ、他者とぶつかつたとき

にそれぞれの違いを受容することを通じてお互いを大切にでき、そんなことが自然とできるような、強くやさしい社会を目指して。ここに、この言葉を掲げ、みんなで進んでいくことを宣言します。

2022年6月26日
かものはしプロジェクト

どうか、これから、より一層みなさまのお力を貸してください。

未来は自分たちの手で変えるもの、
変えていけるものだと信じています。

この変更に伴い、かものはしプロジェクトの定款に定める「目的(定款第3条)」は
以下のように2022年6月総会にて変更する予定です。

【現在】この法人は、世界中の子どもや若者達に対して、強制的な商業的性的搾取を中心とした児童労働、人身売買の被害にあうことを防止するための事業を持続的かつ発展的に行い、より多くの子どもや若者達が未来への希望を持って生きられる世界を実現させることを目的とする

【変更後】この法人は、だれもが、尊厳を大切にし、大切にされている世界を育むことを目的とする

続けてきた 対話。たくさん

だれもが、尊厳を大切にし、
大切にされている世界を育む

“

「尊厳」という言葉自体、普段生活していくパッと頭に浮かぶ言葉ではありません。むしろ難しい言葉として捉えていました。改めて「尊厳」って何だろうと考えたとき、それはごく当たり前にあるものだから頭に浮かんでこないんだと思いました。このごく当たり前にあると思えている自分がどれだけ幸せか、そして世の中に尊厳が大切にされていない現実があるのか寂しく思いました。尊厳をお互いに大切にしあえる環境下でこそ人は輝けると思います。そんな世界になればと願っています。

かものはしスタッフ
野溝明子

“

これまで長きにわたり取り組まれてきた児童買春や子どもの人身売買といった社会問題の解決だけに止まらず、その軸を広げて社会と向き合いとも歩み続けるという思想が伝わり、社会を取り巻く状況や課題も目まぐるしく変化をして行く中で「今」を表現するに相応しいとても素敵なミッションだと思いました。権利や人権、規則や法則にとらわれずより公平で平等な、あるいは社会というのが自分なりの「尊厳」の解釈で、そこから生まれる個々の自由や尊重という部分において、多くの可能性を秘めていると思いました。

かものはし正会員
Tさん

“

20年一緒にやってきたミッションが変わることはとても不安です。この言葉、精神でよいのかと何度も繰り返して問うてきました。そしてこの言葉のとおりの自分、組織、社会になれるのか不安です。この言葉が自分たちを呪縛してしまうかもしれないと思います。でも、楽しんで進んでいきたいと思います。すでにたくさんの人が尊厳を大切にしていて、そのために進んでいることに勇気をもらいながら。一歩一歩。楽しみながら。

共同創業者・理事
本木恵介

“

新しいミッションは、これまでと比べると一見難しく感じます。でも、この難しさは、日本の子どもをとりまく悲しい現実へのアプローチが相当の難しさをはらむという現実に通じているのだと思います。難しいものを難しいまま受け止めて、行動を通じて根本的な解決策を探求し続ける、そういうみなさんがこれまでとても好きでした。そして、これからも、皆さんのその姿勢は同じなんだな。と、この新しいミッションを見て感じました。

かもカフェ！メンバー
Mさん

“

かものはしプロジェクトが脱皮して新しい姿になろうとしていることに非常にワクワクしています。これまでの20年間で本当に多くの人たちに支えてもらい、自分たちで培うことができた強みを更に社会に広く深く提供できる可能性を感じるからです。新しい理念を自然と体現できる団体となれるようにまた皆さんと一緒に支え合えたらと思っています。今後より大きく可能性の広がるかものはしプロジェクトをどうか応援よろしくお願いします。

共同創業者・理事
青木健太

“

尊厳と聞くと、なんだか難しくて自分とは関係のないものという感じがするかもしれません。自分なりにわかりやすく言い換えてみると、「わたしもあなたも自然と大切にしあう世界を一緒につくっていきましょう」ということだと思っています。皆が自分を大切にし、自然と他者も大切にできる。そんな社会を皆さんと一緒に作っていきます。

共同創業者・理事
村田早耶香

“

私たちのミッションに「尊厳」が含まれていることをとても嬉しく思っています。多くの人は、私たちをこの社会の市民として見ていません。ですから、私たちもこの社会の一員であるという感覚を持たることはありませんし、私たちの尊厳が人々に認められるまでは、そう感じることができないのです。実際、尊厳は私がとても大切にしているものであり、それは私たちの仕事や生き方から生まれるものです。私がレスキューされたとき、私がどんな人生を送っているのかを皆が知ることになりました。私は多くの差別を経験し、社会の中で私の尊厳を傷つける多くの体験をした結果、自殺を試みることさえありました。私はVIMUKTHI*に参加し、IDカードを持つことができたことをとても誇りに思っています。このカードは、他のサバイバーのために仕事をする私に対して、尊厳の証として贈られたもので、私はやっとこのカードを持つことで敬意を払われていると感じることができ、そんな自分をとても誇りに感じています。

*サバイバーグループ

サバイバーリーダー
Rさん

“

尊厳とは、かけがえのなさ、当たり前に入が生まれながら持っているもの、他人が犯してはいけないもの。ですが、いつの時代も色々な形で、その尊厳が失われる不幸が続いてきました。そんな不幸な社会で生きている私も不幸だと感じ、そんな不幸な社会は私たちの代で解決したいと願います。かものはしプロジェクトは、社会課題や不幸を解決し、世界をやさしく照らす太陽のような存在であって欲しいとダイアログで思いました。

サポーター会員
Yさん

“

「尊厳」という言葉は、人や文脈によって異なる意味を持ちます。なので尊厳は常に変化する言葉であると同時に、核となる意味がある言葉もあります。人間は皆、自分自身からの尊厳を求め、自分の言葉で「尊厳」の意味することを理解していると思います。ベンガル語で「尊厳」は、「Morjada」あるいは「Somman」と言いますが、これは「尊敬(respect)」という言葉と同じ意味を持ちます。「尊厳」を体感できるかどうかは、個人の期待値や、社会的・文化的背景など、さまざまな条件によっても左右されると思います。

インドパートナー団体代表
Nさん

“

新しいミッションを聞いたとき、正直言つて「かたいな」と感じました。「子どもが売られない世界をつくる」と比べてしまい、そう思ったのです。「尊厳？」他にもう少しわかりやすくて、柔らかいイメージのことばがないものか。考えてみても、なかなか思い浮かばない。しかし、ダイアログが終わって思ったことは、「尊厳」は「尊厳」のままでいいんだと。新しいミッションになつても、ずっとかものはしを応援します。

サポーター会員
Kさん

東京オフィスからのお知らせ



これからのかものはしも
引き続きよろしくおねがい
しますかも!

2021年度は資金調達額が
4億3千万円となりました。世
界情勢が不安定な中でも、イン
ドと日本での活動を実施するた
めの資金を確保することができます。
ました。皆さまの変わらぬご支
援のおかげで活動ができるま
ことに、改めて感謝申し上げま
す。ありがとうございました。

サポート会員の方々は、支
援のおかげで活動ができるま
ことに、改めて感謝申し上げま
す。ありがとうございます。

15313人(2022年3月
末時点)と15000人を超え
る方にご支援いただきました。

社会に色々な課題がある中でも
かものはしの活動に共感してくれ
たり、「ご支援いただき、活動に
参加していただいたことを本当に
に感謝しております。

「かものはし」会員の方々は、支
援のおかげで活動ができるま
ことに、改めて感謝申し上げま
す。ありがとうございます。

2021年度は新しいミッ
ションに向けて、事務局として準備
を続けた1年でした。2022
年6月の総会では新しいミッショ
ンを参加者の皆さんにお伝えし
た上で承認いただき、その後
シヨンで新しい門出を迎えるよう
にしたいと考えています。(ミッショ
ン変更に関しての詳細は20ページ
に記載していますので合わせてご覧
ください)

そして、2022年度にか
のはしは創立20年を迎えます。
20年という節目である年に、新
しいミッションを掲げること、
日本での「子どもを取り巻く不
条理をなくす」ための事業が本
格展開するという大きな変化を
迎えます。20周年の節目として、
そして今以上に活動を健全に続
けていくために、さまざま企
画を検討中です。改めて共有できることを楽し
みにしていきます。そして、たゆま
み歩みを続けていきます。

かものはしの 新しいミッション

2021年度は新しいミッ
ションに向けて、事務局として準備
を続けた1年でした。2022

年6月の総会では新しいミッショ
ンを参加者の皆さんにお伝えし
た上で承認いただき、その後
シヨンで新しい門出を迎えるよう
にしたいと考えています。(ミッショ
ン変更に関しての詳細は20ページ
に記載していますので合わせてご覧
ください)

新しいミッションを実現するための 事業部スローガンを制定しました!

2022年度に変更する新しいミッションとともに、ソーシャルコミュニケーション部と
経営企画管理部では、それぞれの事業部のミッションを制定了。

ソーシャルコミュニケーション部

経営企画管理部

「あなた」に伝えて「わたし」を増やす

ソーシャルコミュニケーション部では、「『あなた』に伝えて『わたし』を増やす」としました。このミッションは、対話イベントや活動報告を通じて「あなた」に伝え、ともに考えながら、一人一人の思い・行動から社会を変える「わたし」を増やしたい。社会を変えていけると信じてくださる皆さまと一緒に活動していくたい。という思いが込められています。



かものはしのポテンシャルを最高に引き出す

経営企画管理部では、「かものはしのポテンシャルを最高に引き出す」としました。経営企画管理部は縁の下の力持ち的な役割を団体内で担っており、現地での活動が滞りなくできるようにするための組織の大切な要です。支えるだけでなくかものはしの個人・チームが持つ可能性を広げ、発揮できるような部署でありたいという思いで制定了。



支援者の皆さまとの コミュニケーションに 力を入れています

引き続き新型コロナは事業に

2021年度は資金調達額が
4億3千万円となりました。世界情勢が不安定な中でも、インドと日本での活動を実施するための資金を確保することができます。ました。皆さまの変わらぬご支援のおかげで活動ができるまことに、改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

サポート会員の方々は、支援のおかげで活動ができるまことに、改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

15313人(2022年3月末時点)と15000人を超える方にご支援いただきました。

社会に色々な課題がある中でもかものはしの活動に共感してくれたり、「ご支援いただき、活動に参加していただいたことを本当に感謝しております。

「かものはし」会員の方々は、支援のおかげで活動ができるまことに、改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

さまざまな影響を及ぼしていますが、コロナ禍でも試行錯誤しながら事業を実施しています。
(各事業の詳細は各事業報告をご覧ください)

啓発事業においては、対面でのご報告やイベントの実施が難しいなかでも、オンラインでの支援者の皆さまとのコミュニケーションに引き続き力を入れてまいりました。

一昨年から実施している「社会問題を知り、理解し、考え、それぞれの価値観や考えていることの対話の場としての『かものはしダイアログ』」をオンラインで実施することに続いて、初めての連続企画として、「サポートさんと『対話』を学び続ける『かものはしづミ』」もすべてオンラインで実施しました。オンラインで実施することで、全国各地の方が参加してくださいり、世代も居場所も

「かものはしダイアログ、かものはしづミは継続的に実施していく予定です。興味があるという方はお気軽にお問い合わせください。



「かものはしズミ」はオンラインで全国各地の皆まとつないで実施しました。

皆さまとの対話の場
これからも続けます!

支えてくださった企業・団体の皆さん



株式会社キクシマ



こどもプラス株式会社
こどもプラスホールディングス株式会社

新日本管財株式会社
互助会

TAKAZONO

株式会社タカゾノ



株式会社タガヤ



帝國製薬株式会社



壹本製薬株式会社



株式会社東横イン



株式会社トラストファーマシー

医療法人なごみ

一般社団法人
日本漢方薬膳協会

People Focus Consulting

株式会社ビープルフォーカス・
コンサルティング

一般財団法人
ミダス財団

医療法人結想会
ゆいクリニック

NOISE KING

有限公司 Relax(NOISEKING)



ロート製薬株式会社

アースリードアテイン株式会社 / 株式会社アサヒインプレス / アステリア株式会社 / 厚木県央ロータリークラブ / アネス株式会社 / 株式会社奄美群島環境文化総合研究所 / アルファサーティースリー株式会社 / 株式会社いーふらん / 学校法人石川学園 横浜デザイン学院 / 学校法人茨城フレンド学園 / 株式会社HRインスティテュート / FSX株式会社 / MS&ADゆにぞんスマイルクラブ / 有限会社エルジーエヌセミナーズ / 株式会社エルフ商事 / 株式会社エロローズ / 株式会社関東ロジスティックス / 株式会社キツツ / 株式会社久保設備 / 医療法人社団くろべクリニック 産婦人科 / 高徳院 / 税理士法人古田土会計 / 株式会社CUD / 株式会社志村モーター / 株式会社ジョイメイト / Jungkook JAPAN / 住友生命保険相互会社 / 株式会社SEIKO / 世田谷聖母幼稚園 / 有限会社ゾルゾ / 有限会社THS / データビズ合同会社 / 株式会社電興設備 / DO DASH JAPAN株式会社 / 東京お茶の水ロータリークラブ / 東京ビジネスサービス株式会社 / 株式会社トクナガエンジニアリング / 株式会社とりすえ / 株式会社永屋 / 日鉄エンジニアリング株式会社 / 特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会(市立札幌開成中等教育学校ボランティア局) / ハウジングスカイ株式会社 / 株式会社一庭野 / 株式会社古木企画 / 株式会社プロミッショナ / ベイターナルサービスジャパン株式会社 / 魔法のタイツ株式会社 / 三井化学株式会社 三井化学ちびっこワンコイン / 森屋建設株式会社 / 横浜ロータリークラブ / 株式会社ラファイエット / 株式会社リオ・トラスト / 竜友商事株式会社

※五十音順・敬称略 ※10万円以上の支援をいただいている法人、団体の皆さまを掲載しております。

技術協力

アドビ株式会社 / アビームコンサルティング株式会社 / 油屋マネジメントコンサルティング / HTBエナジー株式会社 / MCリテールエンジニア株式会社 / 株式会社コムニス / サイカンパニー / システムアウェアネスコンサルティング / Steinbach & Partner / 株式会社セールスフォース・ジャパン / ソフトバンク株式会社 / 株式会社Deep Harmony / 株式会社デファクトスタンダード / 一般社団法人ハーティン / ハチドリ電力 / 株式会社バリューブックス / 一般社団法人無憂樹 / ヤフー株式会社

※五十音順・敬称略

あなたにあつたイベント、
きっと、見つかるかも!!

KAMO EVENT

かものはしのイベントに
参加しませんか?



社会問題について対話をしたい・学びを深めたい方へ
かものはしダイアログ

月1回開催

かものはしサポーターとスタッフの「対話をする場」です。ひとつのテーマとともに、対話を深めます。社会課題や当事者の現状について「知ること」、「わたし」としての感想や気づきや、もやもやを「語ること」を通して、社会と自分が地続きである実感を持ち、それぞれの自由なアクションにつながることを願っています。毎回、テーマのジャンルはさまざま。みなさまからの持ち込みも大歓迎です!一緒にじっくりゆっくり話しましょう。



かものはしサポーターとスタッフの「雑談の場」です。もっと垣根なく、お互いのことを知りたい方へ。かものはしサポーターとスタッフと気楽に話したい方へ。かものはしサポーターとスタッフと気楽に話したい方へ。



社会を変えると一緒に
つくってみたい・挑戦したい方へ

かものはしそれ

年1回(連続講座)開催

「社会を変えるを一緒につくる」を目指し「ともに学び合う場」です。入り口として「対話の練習をはじめる」「皆の生きづらさから考えてみる」というテーマで、2021年からスタートし全7回で開催しました。(2022年も開催を予定しています。)自分の内側にある「たね火」を見つけること、そして、それをともに育てていく中で、夢に向かってアクションや大きな流れが生まれていくことを願っています。ぜひ、一緒に学び合いましょう。

すべてのイベント情報はこちから

かものはしイベント

検索

<https://www.kamonohashi-project.net/event/>



社会人ボランティアコミュニティ「かもカフェ!」

かもカフェ!は、世代やバックグラウンドが様々なメンバーが、育児の合間の時間や、仕事後の時間、休日の時間を使って活動しています。現在は、定期的にオンラインで勉強会など開催しています。随時メンバーを募集中!

かものほしボランティア

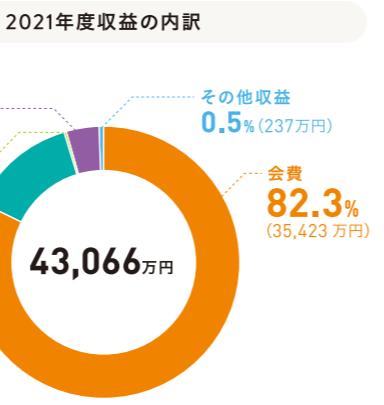
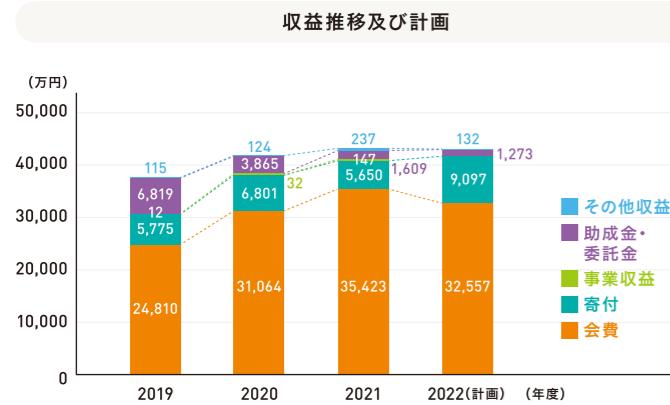
検索

<https://www.kamonohashi-project.net/support/volunteer/>

「駄言辞典」という本を
起点に「無意識の思い込み、
偏見」をテーマに
対話しました。

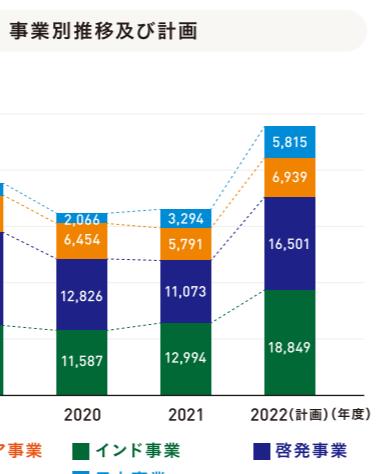
収益推移及び計画

2021年度の収益は、当初懸念していたコロナ禍による大幅な落ち込みではなく、前年度比3%増の4.3億円となりました。WEB施策による新規会員の増加により、2021年度末で会員数は15,313人に達し、会費収入総額は前年比14%増となりました。一方、海外財団からの助成金は、イギリスのCIFFからの助成金が2020年度中に終了し、2021年度はスイスのOak財団のみとなったことにより、前年比58%減の1千6百万円となりました。2022年度は、クレジットカード決済のセキュリティ強化やWEB施策の市場環境悪化などにより会員会費が減少する見込みですが、新たなチャリティイベントへの参加などにより寄付を伸長させ、ほぼ前年と同程度の収入を見込んでおります。



部門別費用推移及び計画

2021年度の費用は、インド事業及び日本事業の成長、また緊急支援の実施などによる事業費が増加した一方で、啓発事業のWEB施策の投資が減少するなどの影響で前年度比0.7%と前年度同水準となりました。インド事業は、為替変動やコロナ禍の影響を受けている現地の生活・心理面の状況を鑑みたペースで活動を推進しており、予算使用率が計画比74%となりました。日本事業は、コロナ禍による影響や戦略策定に伴い実施事項の取捨選択をした結果、予算使用率は67%となりました。啓発事業は、市場環境の変化に伴い費用対効果の高い施策のみ実施したため、WEB施策への投資額が減少し予算使用率75%となりました。2022年度は、インド事業は1.9億円(前年比145%)、日本事業は事業を本格展開し0.6億円(前年比177%)、啓発事業は新たな切り口での施策強化などで1.7億円(前年比120%)を計画しております。



会計監査の実施について

当法人では2017年度(第14期)より会計監査人による外部監査を行っております。監査対象となった財務諸表及び監査報告書はホームページに掲載しておりますので、ご確認ください。今年度(第18期)の会計監査の結果に関して、財務諸表等がすべての重要な点において、財務諸表の注記に記載された会計の基準に準拠して作成されている旨の意見を頂戴しております。

監事監査報告書

認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト 理事長 本木 恵介 殿

私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、2021年4月1日から2022年3月31までの事業年度の理事の職務の執行を監査した。その結果、理事の職務の執行に関する不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められないことを確認した。また、貸借対照表及び活動計算書(「実績」部分に限る)は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認める。

2022年6月1日
認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト 監事

山本龍太朗

活動計算書

(単位:円)

科目		当初計画	実績	計画達成率	計画	前年比増加(%)	
経常収益	受取会費	正会員・賛助会員受取会費	337,493,469	354,231,704	105%	325,573,416	-8%
	受取寄付金	受取寄付金	69,040,000	56,504,084	82%	90,966,000	61%
	受取助成金等	助成金収入	14,402,891	16,090,714	112%	12,733,315	-21%
	受託事業収益	委託金収入	-	-	-	-	-
	事業収益	啓発事業収入	-	1,466,900	-	-	-100%
	その他収益	雑収入等	1,320,000	2,367,114	179%	1,320,000	-44%
	経常収益 計	422,256,360	430,660,516	102%	430,592,731	0%	
経常費用	インド事業	175,391,169	129,939,607	74%	188,490,087	45%	
	事業費	啓発事業	147,034,016	110,731,472	75%	165,014,196	49%
	日本事業	49,231,705	32,937,064	67%	58,148,922	77%	
	事業費 計	371,656,890	273,608,143	74%	411,653,205	50%	
	管理費	事務局	60,685,980	57,913,171	95%	69,386,891	20%
	経常費用 計	432,342,870	331,521,314	77%	481,040,096	45%	
	当期経常増減額	-10,086,510	99,139,202		-50,447,365		
当期正味財産増減額		-10,086,510	99,139,202		-50,447,365		
前期繰越正味財産額		195,943,745	195,943,745		295,082,947		
次期繰越正味財産額		185,857,235	295,082,947		244,635,582		

貸借対照表(2022年3月31日現在)

(単位:円)

科目		金額	科目		金額
資産の部	現金預金	283,402,578	負債の部	未払金	21,515,416
	未収金	31,345,408		未払法人税	70,000
	前払金	1,364,000		前受金	110,000
	前払費用	311,740		1年以内返済長期借入金	5,340,000
	仮払金	916		預り金	1,923,016
	流動資産 計	316,424,642		流動負債 計	28,958,432
	長期未収入金	13,199,737		固定負債	6,675,000
固定資産 (投資その他の資産)	差入保証金	1,092,000		長期借入金	6,675,000
	固定資産 計	14,291,737		固定負債 計	35,633,432
	資産の部合計	330,716,379		正味財産の部 合計	195,943,745
正味財産の部			前期繰越正味財産額		99,139,202
正味財産の部 合計			当期正味財産増減額		295,082,947
負債及び正味財産の部合計			負債及び正味財産の部合計		330,716,379

その他情報(参考)

Tafteesh事業の2022年度拠出額について

2019年10月にOak財団と3年間のTafteesh事業の実施に関する契約を締結しました。2022年4月から2022年11月まで、Oak財団が119,833.02USD(14,666,363円)、かものはしプロジェクトが243,931.21USD(29,854,740円)を拠出する予定です。

※日本円は読者の便宜のために提供するものであり、2022年3月31日の為替相場(1USD=122.39円、単位未満切捨て表示)で換算しています。

追徴課税の負担に関して

2018年3月まで当法人の一事業であったカンボジアのコミュニティ・ファクトリー事業(以下、「CF事業」)について、2021年8月にカンボジア税務当局から税務調査がありました。2021年から5年間遅延された追徴課税を受けた結果、近い将来追徴課税の負担が発生する可能性があります。当該CF事業については、2018年3月31日、当法人の理事の一人である青木氏が新たに設立したNPO法人SALASUSU(以下、「SALASUSU」)に事業譲渡しており、SALASUSUと共同で外部の専門家に依頼し、当該追徴額に関して税務当局と交渉を行っております。2022年3月末現在で追徴額は確定しておりません。

役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者の取引は、長期未収金(貸借対照表)に計上された13,199,737円の全額が近親者及び支配法人等との取引に該当いたします。また、事業費の業務委託費(活動計算書)に計上された86,443,968円の内、近親者及び支配法人等との取引は1,430,000円です。



学びを通じて
見つけた自分。

カンボジアの農村にあるSALASUSUの工房。
この場所で働き、学び、自らの人生を
力強く歩む作り手女性、サムナンのストーリー。

私はシェムリアップの農村で
生まれました。10歳の時に母親が
病気になり、家族を支えるため
に小学校を5年生で中退しまし
た。その後たくさん仕事を経
験しましたが、特に家政婦とし
て働いていた時は人としての扱
いを受けられず、辛くて夜はい
つも泣いていました。しかし、私
の家族にはお金が必要だったの
で、耐えて働くしかありません
でした。

SALASUSUと出会った
のは19歳の時です。ミシンを触る
のは初めてだったので、最初は
使い方も分からず、針が自分の
手に刺さってしまうのではないか
などとても怖く感じました。
一番最初に縫った商品は丸い
コースターでした。今なら10分ほ
どで完成しますが、最初は曲線
を縫うのが難しく、とても時間
がかかりました。先生が一つ一



つミニシンの使い方を教えてくれ、
3日かかってなんとか一つの
コースターを縫い上げることが
できた時、正直あまり出来栄
えはよくなかったけど、「これを自分が作つたの
だ」ととても誇りに思つ
たことを覚えています。

その後も工房ではたくさんの
商品を作ることに挑戦しまし
た。私は他の人より成長が遅く、
周りを見て焦つたり、できない
自分に落ち込んだこともあります。
そんな時は、周りの人たちが
できるのだから自分にもできる
んだ、と自らを励まし続けまし
た。初めてミシンを触つてから
約9ヶ月で一人前として認めら
れた時は、言葉にならないほど
嬉しかったです。

以前は自分の人生を他の人と
比べてうらやむだけでしたが、
今はそうやって人と比べるのを
やめました。私はお金持ちでも、
多くのものを持っているわけで
もないけれど、自分や現実の生
活を受け入れ、私の方法で自分
の人生を楽しめるようになります。
した。もう何事も、決して諦めな
くないです。



SNS
Facebook: @salasusufromcambodia
Instagram: @salasusu



8月31日までに
お申し込みいただいく
SALASUSUオリジナル
ナルエコバッグ(非売
品)をプレゼント!

COASTER コースター(日本未発売)

工房に来て一番変わったこと
は、「自分でもできる」と心から
思えるようになりましたことです。

工房に来てすぐは、自分には働
くための能力やスキルはないと思
っていました。自分にも可能
性があるということを、信じよ

WATCH MOVIE



今後の夢を語るサムナンを動画で見る

ENJOY YOUR LIFE JOURNEY, TOGETHER

コロナの影響が続き、資金が足りない今、
あと10人の女性がサムナンのように自分らしい人生を歩めるよう
30人のSALASUSUサポーターを募集します！

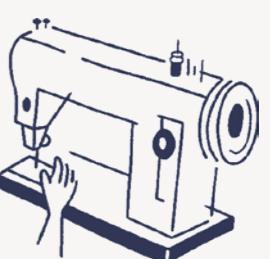
2018年に「かものはし」のカンボジア事業から別団体のSALASUSUとして独立して4年。私たちが目指すのは、生まれた環境に左右されず、人生を主体的に歩む女性をカンボジア中に増やしていくことです。しかし、コロナ禍で観光客が激減し、収入の約7割を占めるカンボジアでの商品売上はゼロに。この危機の中でも、より多くの女性たちが働き、学べるよう、SALASUSUに力を貸してください！

SALASUSUサポーターのお申し込みは

salususu サポーター

検索

<https://salasusu.com/join/supporter/>



この年次報告書は、サポートしてくださっている
印刷会社さまのご協力により、
ご寄付の一環として無償で印刷していただきました。
長年のご協力に感謝いたします。
今年も変わらずご協力を賜り、
皆さまに報告書を届けることができました。
かものはしスタッフ一同、心から感謝いたします。



子どもが売られない世界をつくる
認定NPO法人 **かものはしプロジェクト**

団体名	認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト
住所	〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402
TEL	03-6277-2419
E-mail	info@kamonohashi-project.net
理事	青木健太／伊藤健／篠田真貴子／樋口哲郎 村田早耶香／本木恵介／横山十祉子
監事	山本龍太郎

かものはしプロジェクト

検索



<https://www.kamonohashi-project.net>

※かものはしプロジェクトは、被害者のプライバシーと意思を尊重し、
被害者個人が特定される写真は使用いたしません。
また写真を使用する際は本人の許可をいただいております。